



赤ちゃんふれあい授業で学んだこと

6月9日(金)に2年生が「赤ちゃんふれあい授業」を行いました。

保育実習棟に11組の赤ちゃんとお母さんをお迎えし、家庭教育アドバイザーさんのご指導のもと、赤ちゃんとおふれあい、お母さんから話を聞かせていただくという貴重な学習を体験しました。



<生徒のレポートより>

- ・「人を育てること」は、「自分も育ててもらっていること」という言葉が強く印象に残りました。赤ちゃんは本当に素直でいろいろな表情を見せてくれて、こちらも素直な気持ちになってたくさん学ぶことができました。
- ・なかなかふれあうことのできない3か月の赤ちゃんとおふれあい、授業で学んだイメージよりもはるかに発達していたり、保育ボランティアの時は周りの先生だったのが、今回はお母さんと一緒に甘え方が違ったりなど今まで気づかなかった新たな発見がありました。
- ・「赤ちゃんふれあい授業」を行い、たくさんの赤ちゃんから学ばせていただきました。温かくてふわふわしていてやわらかいと感じました。こんなに小さいのにしっかり生きているんだと思いました。小さい手で力強く私の指をにぎり、この子は一生懸命、今を生きているんだと感じ、私も負けずに力強く生きていきたいと思いました。
- ・お母さんに「子育てをしていて一番意外に思ったことはなんですか」と聞いた時に「自分自身が子どもに対してイライラしていること」とおっしゃっていました。将来、保育士になる時にはお母さんのイライラや辛さ、不安なことを少しでも寄り添って聞いてあげたり解消してあげられるようになりたいと思いました。
- ・私は今回の体験で、他の人の子を初めて抱かせてもらいました。すると、「可愛い」と同時に「守らなきゃ、けがをさせてはいけない」と思いました。抱いている時の重さが体重だけではないような気がしました。
- ・保育の授業を受けて、知識を身につけているだけではやはりダメなことがわかりました。子どもはどのような行動をするのかわかりません。そこで、すぐに対応できるかななどの「対応力」も伸ばしていきたいと思いました。
- ・お母さんに「今まで子育てをしてきて、一番嬉しかったことはなんですか」と質問したら、「日々成長していくので、その成長を見られることが嬉しい」とおっしゃっていました。教科書や授業で、子どもは日々成長していくものと習っていましたが、こんなにも目で見てわかるものだとは思っていませんでした。今日の交流を、これからの保育の学習や実習などに活かしたいと思います。
- ・お母さん方の「子どもがかわいくてしょうがない」「大変なことはない」「いたずらをしてでも愛らしい」という言葉を聞いて、預けてくださったお母さんの気持ちをしっかりと考えて保育していかなければならないことに気づきました。
- ・この体験のためにパープサートを作りましたが、テープなどで保護をしなかったことで、子どもが興味をもって手を伸ばした時に手先が汚れてしまいました。この失敗は、「こどものくに」のおもちづくりを活かしたいです。
- ・感謝することの大切さについて教えていただきました。今日、この場(環境)を作ってくれた先生方や高校まで来てくださった赤ちゃんとお母さんの方、アドバイザーさんなどに感謝したいです。これからも、様々な環境や人に「感謝の気持ち」を忘れずに保育についてたくさん学んでいきたいです。